

「心理的な距離について」

夏休みが終わりました。秋は学校行事が目白押しです。まだまだ暑い日が続きますが体調に気をつけて、充実した高校生活を満喫しましょう。

車の免許などをこれから取得する人もいますが、今日は1メートルなどの物理的距離ではなくて、心理的な距離のお話です。

私は小学校時代、世田谷に住んでいたのですが、自由研究（いまの探究のようなものです）で「公害」について調べるため、川崎の工場を見に行きました。そのころは煙突から煙がたくさん出て、空気も汚れているのか少し息苦しく感じました。川崎では「ぜんそく」が公害由来ではないかということで問題になっていた時期でした。

電車やバスを使わずに自転車で移動していましたが、ずいぶん遠くまで冒険したような気分になりました。当時は自転車で行ける範囲が自分の世界の限界エリアだったので、川崎まで領土が広がったように感じました。

小学校の途中で神奈川に引っ越してから、卒業まで世田谷の小学校に電車とバスで通学していました。1時間20分くらいかかったと思いますが、電車に乗り慣れたため自分のエリアがさらに大きく拡大しました。主に小田急線だったのですが江ノ島や小田原に足を延ばすこともありました。

車の免許を取ってから、さらにエリアが拡大します。若いころは元気だったので青森まで車で行くこともありました。高速代はかかるものの、日本国内ならほぼどこへでも行けるようになりました。心理的には日本全国が身近で、狭く感じるようになりました。

飛行機に乗ったのは沖縄に行ったことが最初だと思います。飛行機は好きだったのでいつか乗りたいと思っていたのですが、搭乗までの段取りが億劫だったのでデビューは遅かったかもしれません。海外は結婚してからが最初で、妻と1年に1回は海外に行くことを約束したので、初めてパスポートを取りました。その約束を守る代わりにその他の休日は部活動やり放題だったので妻にはだいぶ負担をかけたと思います。仕事が終わったらまたどこかに連れて行ってあげたいと思っています。

JICAの研修に応募してパプア＝ニューギニアに行ったことで世界が一段と近くなりました。みなさんはグローバルな時代に生きることになります。実際に行ってみること、世界との心理的な距離を縮めることは大切だと思います。